

石田消化器IBDクリニックでのIBD治療



石田消化器IBDクリニック

- 受付時間：9:00～12:00 13:00～18:00
- 休診日：金曜、月曜午後
- 所在地：〒870-0823 大分市東大道1丁目3番1号
アクロスプラザ大分駅南2F
- TEL：097-529-5777
- URL：http://ishidaibd.com/



院長
石田哲也 (いしだてつや) 先生

1989年大分医科大学医学部卒業後、同大第一内科入局。1995年よりルイジアナ州立大学医学センター、オハイオ医科大学への留学を経て、2002年大分赤十字病院消化器内科勤務。2005年同消化器内科部長。2016年11月石田消化器IBDクリニックを開業。日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医など

大分駅すぐ近くに開業した新しいIBDクリニック

11月も開院ついで

当院は2016年11月に大分駅徒歩1分という立地に設立した新しいクリニックです。土日も開院し、仕事や学業で平日の通院が難しい患者さんにも対応しています。大分赤十字病院などで多くの炎症性腸疾患（IBD）診療に取り組んだ経験を活かし、診療を行っていると思います。大腸カメラや小腸・大腸カプセル内視鏡など最新の検査設備のほか、点滴治療や顆粒球吸着療法（GMA）を行うための個室を備え、患者さんにゆとり治療を受けていただける環境を整えています。

IBDの治療内容

大分赤十字病院時代にはクローン病（CD）約170名、潰瘍性大腸炎（UC）約23

0名の患者さんを診療しており、その多くの方々を引き続き当院で診療しています。

CDの治療は、保険適用となるすべての治療選択肢を用います。生物学的製剤が登場してからは入院や手術を回避できるケースが多くなりました。軽症の方は栄養療法と5-ASA製剤が中心となります。中等症以上では生物学的製剤のほか、ステロイド、免疫調節薬、GMAなどを組み合わせながら治療を行います。

UCの治療は、症状に合わせて5-ASA製剤、生物学的製剤、免疫調節薬、GMAなどを選択します。寛解導入治療におけるステロイドは、患者さんがステロイド依存・抵抗の状態にならないよう慎重に使用します。大分赤十字病院時代から使用していたGM

AはUC治療の柱のひとつであり、近く当院でも導入していく予定です。

安全性の高いGMA

GMAのメリットは副作用が少ない点にあります。糖尿病や感染症などの合併症が懸念される高齢の方や、ステロイドによる副作用（特に成長障害）が懸念される10代の患者さんには第一選択になります。GMAを主体として治療を行う時は、より早く効果があらわれる週2、3回の施行（インテンシフ療法）が望ましいでしょう。慢性疾患であるIBDでは安全性を担保しながら治療を行うことが重要ですが、その意味でもGMAは積極的に導入しやすい治療といえます。

患者さんのQOL向上のために

IBDに対して近年さまざまな治療法が開発され、多くの患者さんは寛解導入が可能になっていきます。もちろん症状が落ち着いていても寛解維持治療は必要ですが、状態によっては減量・中止できる薬がある場合もあります。タイミングを見て治療の切り替えを検討し、最低限の治療で良



石田先生とクリニックスタッフの皆さん(受付にて)



TVを備え付けた点滴室(個室・半個室各2部屋)。リラックスしながら点滴治療やGMAを受けることができる

患者さんを身近で支えたい

IBDは人生の中でもたくさんのイベントを控える若い時期での発症が多い病気です。そのため、患者さんひとり一人との診察時間を確保し、治療だけでなくさまざまな面でサポートをしたいというのが、クリニックを開業した経緯のひとつです。少しでも体調が悪いと感じたら気兼ねなく当院をおたずね下さい。



石田先生「大腸カメラ・カプセル内視鏡・腹部エコーなど最新の検査設備を整えています」